

令和3年度 第6回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和4年2月17日(木) 18:30~19:30

於: 千里丘小学校 東棟1階会議室

記録: 紅林 陽子(事務局: 本校教頭)

出席委員: 中田 康之、以登田 毅、佐野 英和、寺田 洋子、藤浦 清美、前馬 晋策、橋爪 恵子、武友 加代子

欠席委員: 青木 みゆき、木下 さひ子 (敬称略)

学校出席者: 校長 撰田 裕美、教頭 紅林 陽子

1. 校長より挨拶

今朝は非常に寒かった。本日、せつつ幼稚園児が小学校体験で本校を訪れていたが、観察池に氷が張っており、冷たい水に手を突っ込んで興味を示していた様子が見られた。子どもの興味・関心はすごいと思う。

今回は本年度学校協議会の最終回として、まとめを行いたい。

(2月の学校の様子)

- 2月 2日(水) セーフティパトロール
- 2月 3日(木) 生活アンケート
- 2月 4日(金) English Day
- 2月 7日(月) 校内人権研修(アンガーマネジメント)
- 2月 8日(火) 入学説明会
- 2月10日(金) 三中乗り入れスクール
- 2月15日(火) 三宅柳田小学校研究発表会

(中田) 乗り入れスクールについては、6年生が三中を身近に感じるイベントが実施できてよかった。

(前馬) 乗り入れスクールはずいぶん前から行われているが、続いているということは意義があるということだろう。

(校長) 6年児童たちは緊張したようだが、実際に三中の先生の授業を受けたり、三宅柳田小学校の児童とふれ合ったりすることができ、とても有意義であった。

(前馬) English Dayについては、本来は体育館で大々的に交流を行いたかったが、このコロナ禍の中でできることを実施した形と聞いている。でも、開催できてよかった。

(校長) 1年生などは朝、ALTの先生にあいさつされてとても喜んでいて。特別な一日になった。

2. 令和3年度学校協議会 関係者評価

(校長) これまでの協議をもとに、事務局でまとめ関係者評価に代わるものとして提言案を作成した。過去に、味

舌小学校や鳥飼西小学校で作成されていたものを参考にさせていただいた。

(前馬) 関係者評価は、教員の励みにしてもらうためのものにして欲しいという思いがある。教員の今後の教育活動が充実するために評価はあるべきだと思う。そこで、教員向けの「お手紙」のようなものの方が、効果があるのではないだろうか。

(以登田) 外部から見ている者としては、全て見えているわけではないので「A、B」などの段階評価を行うことは難しい。外部からそのような評価をするよりは、先生方へのメッセージをお伝えした方が良いと思っている。

(校長) 学校経営計画の3つの柱に沿って学校協議会でいただいたご意見をまとめている。追記した方がよい内容や、変更した方がよい内容など、いかがだろうか。

(1) 安全で安心な学校づくりについて

(前馬) 全体として、いろいろなことに挑戦していて、児童の成長のための取組みを進めている、と思っている。ただ、できていたり、満足したりしている児童の数だけを見るのではなく、できていなかったり、辛い思いをしている児童に目を向けるという姿勢は忘れないで欲しい。人権教育や個に応じた指導を大切にしていって、そのようなことを大事にして欲しい。

(校長) 「1割の児童が、学校が楽しくないと感じていることに危機感を」と、「人権感覚を育む取組みを」というご意見に関して、教員に説明する際は留意して伝えたいと思う。

(前馬) ぜひ教職員の励みになるように提言を伝えて欲しい。

(2) 確かな学力と体力を育む学校づくりについて

(校長) 平均正答率だけを追うのではなく、二極化について、また、体力向上の取組みについてもふれているが…。

(前馬) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が返ってきていると思うが、実際のところどうなのだろう。全国的には、コロナ禍の中で体力が落ちてきている。千里丘小学校はどうだったのだろうか。児童の体力の維持はやはり難しかったのだろうか。

(校長) 個による差が大きく、体力を維持できているとは言い難い。

(前馬) 体力調査のスコアはどうだったか、きちんと確認できているだろうか。学力調査の分析、振り返りを大切にするのと同様に、体力調査の結果分析も大切にして欲しい。

(校長) 今後分析を行ってこうと考えている。千里丘小学校の実態としては、運動習慣は二極化しているのが現状。特に高学年については、運動時間が多い児童は全国平均を大きく上回り、少ない児童は全国平均を下回っている。本校にお招きしている外部講師によると、千小っ子運動タイムの取組みの成果も、今の1年生が4年生、つまり高学年になるまで取組みを進めていかないと成果が見えてこないのではないか、と仰っている。取組みを継続していくことが命題だと考えている。

(前馬) 全国的にもコロナの影響が肥満化傾向にも出ているというデータが示されている。千里丘小学

校も同様の傾向が出ているのかもしれない。

(校長) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、ゲームの時間やSNSに関わる時間の増加、睡眠時間の減少、体を動かす機会の減少が顕著であった。キチンと分析をする必要がある。

(藤浦) 千小っ子運動タイムは子どもたちが楽しんでいたし、とても有効に見えた。

(校長) 取組みは維持していきたい。一方で、準備に時間がかかることが課題。次年度に向けて、外の遊具を活用しての取組みなどを検討中である。

(3) 信頼される学校づくり

(校長) 学校からの発信の在り方、PTA、地域とのつながり等についてまとめさせていただいた。PTAについては、教員にPTAへの参画について改めて考えて欲しいという思いもある。

(佐野) 私がPTAの役員をしていたときも、保護者の方の参加が主で、教員の参加はあまり感じなかった。今後、先生方が何かできるイベントなどができたら、と願うところである。

(以登田) PTA活動にしても地域の活動にしても、いろいろな形があると思う。“教員が地域のイベントに参加していく”のではなく“いかに地域の人間を学校へ引き込むか”と発想を転換する必要があるのではないか。九九の練習や、調理実習のお手伝いなど、地域の人に学校の活動に参加していただき、それを通して学校の活動の充実を図る方向で考えていけば、もっといろいろな発想が出てくると思う。

(佐野) 教員の方が、PTA行事などに参加の際、怪我をされた場合の保障はどうなるのだろう。以前、ある学校の校長から、職員がPTAのスポーツ大会で怪我をしたことがあり、職員に参加を促しにくい、と伺ったことがある。

(中田) PTAの保険を含め、最低限の補償はあったように記憶している。

(中田) 不思議なことに、安威川以南は比較的教職員が積極的に参加し、盛り上がりを見せる校区が多い一方で、安威川以北の学校区は消極的なイメージだ。

(前馬) 一中校区は、けっこう積極的だった。千里丘小学校でどうすれば活発になるかを考える必要があるのでは。

(寺田) イベントを通して、つながりを深めようとする気持ちを持てるか、いかに前向きになれるか、ということが積極性に繋がっていると思う。

(以登田) 教育・子育てに当たって、トータルで「この子の成長に当たってどう関わっていくか」と考えることができ、一緒に取り組むことになれば、先生も認識・発想が変わっていくと思う。「負荷」と考えるのではなく、子どもの成長に関わっていく、つながりを作っていくためのイベントと考える位置づけができたら、良い方向に行くと思う。

(中田) 今年度は学年親睦会が開催できたそうだが、このような機会をきっかけに学校が保護者と人間関係を作

っておくことが大切だと思う。トラブルが起こってから初めて関わるとなると、うまくいかないことも多い。教職員が保護者と共通認識をもち、人間関係を作っていくことが、将来必ず生きてくると思うし、今この協議会に自身が参加しているのも、そのようなつながりがあったからこそ。これからも関係を築いてもらえたらと思う。

(校長) 昨年度はコロナのことがあり、学年親睦会も含めPTAの活動ができなかった。学年親睦会については従来、学年ごとに決まりごとがあった(5年生はカレー作り、など)が、今年度は一から話し合っ取組みを進めた。その結果、保護者と担任との関わりが増え、保護者にとっても担任にとってもよかった。今後もこのようなつながりは大切にしていきたい。

(前馬) 地域とつながること「地域から愛される千里丘小学校」にしたいという方針を校長は持っておられる。その“つながろう”という意識をそれぞれの立場から、それぞれで考えてもらって具現化することを大切にすればいい。できる範囲で、できることを進めていくことが大切だろう。

(以登田) 学校のカリキュラムの中でも地域の力を借りる場面はたくさんある。校区巡りで学校周辺のことを知るとか、郷土を知る活動で地域の講師を招くとか。他にも、マラソンの様子を見守ったり、音楽会に地域の方を招待したりするなど、ギャラリーが増えることで子どもたちの意欲は向上する。学校のカリキュラムの中に地域を巻き込むことで、より子どもたちの教育活動が豊かになるのではないと思う。

(校長) 本日いただいたご意見を要点録にまとめ、また教職員にも伝える。提言については、文言を変えるのではなく、ニュアンスを含めて教員に伝えるようにする。

3. その他

(校長) 児童数増加に伴い、千里丘小学校の今後の運営について、市の方針が決まった。児童数は今後増加の一途をたどり、令和3年度から令和10年度にかけて倍増する(700名超になる)と見込まれている。この数字も住基台帳上のものであり、調査会社によると900名を超える児童数になるとも言われている。結果、校舎の容量が不足するため、大規模改修が実施されることが決まった。現段階では基本設計が令和4年2月、実施設計が令和4年4月から、工事が令和5年7月から行われ、仮設校舎を令和6年4月から使用し、工事終了が令和10年3月の予定である。かなり長期間の工事が行われる。本格的な工事は令和5年7月からとされているが、来年度から改修工事のスケジュールは進行する。地域の学校として、大事にして欲しい点や質問などがあれば、今お聞きしたい。

(前馬) 今お話を伺って心配に感じたことが2点ある。1つ目は、基本設計と実施設計を並列で行うということ。細かいことについて漏れ落ちなどは本当に生じないのだろうか。2つ目は、工事で我慢ばかりして卒業する児童が出るのではないかとということ。令和10年度から新校舎が使えるということは、次の令和4年度の入学生は、完成した新しい校舎で過ごすことがほとんどなく卒業する可能性もある。保護者の立場からしたら、児童への保障などはあるのか気になるところだ。運動場はしばらくずっと狭いはず。代わりにこんなこと

を考えている、ということはあるのか。

(校長) 市はプールや文化ホールなど、市の公共施設を含めて使用できるように配慮するとは言ってくれているが、代替するにせよ距離的時間的に不可能な部分もある。毎日の教育活動の中でどうするのか、ということについては課題がある。

(中田) 例えばグラウンドでいうと、体育の時間は2時間続きにして明和池公園を使って活動する、などの工夫が必要になってくるのではないだろうか。また、市民プールを使用できるとしても、毎日の中で活動を確保することはなかなか難しいと思う。プールや体育館などから建てていただく、ということとはできないものか。

(校長) かなりの数の教室数を確保する必要がある、狭い敷地の中でどう有効利用するか、ということが大変だと思う。子どもの活動の保障が一番気になる。

(前馬) 児童の安全面の確保が最優先にはなる。地域住民にも迷惑をかけないように解体を進める必要もある。ただ、子どもたちへの教育保障と、「6年間この学校に通ってよかった」と思えるようにしてあげて欲しい。

(中田) ちょっとずつでも新校舎を体験させてあげたいところ。

(校長) 一度に移転というわけではないが、タイミングを計りながら徐々に新校舎に入っていくことになると思う。

(橋爪) 自分の孫が、家を建てている様子を見て「建築士をめざしたい」と言っている。工事の様子を見て、そんなことを思ってくれる児童がいれば嬉しいと思う。

(佐野) そもそも、今の倍以上の児童を収容する校舎の建設が、物理的に可能なのだろうか。この狭いスペースで仮設校舎を建てて、工事や資材のスペースをとって、子どもたちの活動を確保して…、となると無理があるように思う。周りの施設に協力を委ねないと難しいのではないか。6年間、工事中に通う子どもたちにとってどうなのか、心配。活動に当たって代替するものの担保を先に行った上で、工事を進めて欲しい。

(前馬) 教育活動が本当に確保できるのか。そこが気になる。

(橋爪) 摂津小学校も児童数の増加に伴って学校を改修していると思うが、どうだったのだろう。

(前馬) 摂津小学校はグラウンドが広がったので、校庭の一部に校舎を増築できた。しかし、一定期間運動場がずいぶん狭くなり、運動場を使うことができなかった。

(佐野) もともと千里丘小学校の敷地は他校に比べて狭い。千里丘小学校の敷地内で全面建て替えが本当にできるのか、不安な感じもある。設計士が設計しているので、できる算段なのだろうが…。教育活動を確保するためにプールと体育館を上下に作るとか、そういった形もありかと思う。

(前馬) 他の自治体でもその様な仕様の学校も出てきているから、おそらく検討していると思うが、運動場の半分が使えない、という期間がどれくらいあるか、心配だ。

(校長) 使えないエリアがどんどん移動していく形にはなると予想される。その残されたスペースで、本当に走ると等の活動がきちんと保障されるのか、気になるところだ。

(前馬) 安全面については気を配っていただけたと思う。しかし、教育活動については、保護者も地域の方も気にかけているのではないか。学校協議会からこのような意見が出ていることをぜひ伝えて欲しい。

(以登田) 以前、1,600人を超える学校で運動会の練習をしていた際、狭すぎて両手を広げられないくらいだった。

その時は淀川の堤防も使いながら練習を行ったが、学校の中だけで完結させるのは難しいのかもしれない。この周辺で言ったら、市場池公園や明和池公園しか思い浮かばない。

(寺田) しかし、今は学校外に連れ出して活動する、ということは難しくなっているのではないか。

(校長) 校外に出て活動となると、届が必要になる。

(佐野) 3年前、プールが故障した際にバスで摂津小学校まで行き、プールを使うということがあった。そんな形もありかもしれない。

(前馬) 摂津小学校自体も児童数が多いので、なかなか難しいかもしれない。

(寺田) よほど斬新な設計でないと、無理ではないか。周りの土地に増設する措置なども必要ではないだろうか。

(藤浦) 建て替えの間、周りの施設を使うことなど、できないだろうか。

(武友) 旧三宅小学校を活用するなどとはできないのだろうか。

(前馬) この10年だけを見ると児童数は増えてはいるが、将来的にはまた減っていくこともある。摂津小も30~40年の使用を想定して校舎が増設されている。学校一つ建てるとなると、大きな予算が必要だし、市全体の長いビジョンの中で様々なことを考える必要がある。ただ、今の児童の教育権が実質的に保障されるよう、我々の声を校長先生から市の方に伝えて欲しい。

(中田) もし、旧三宅小学校を活用するとすると“廃校になることが決まっている学校に通わせるのか”という思いもある。行政の都合で子どもたちが「あっちへ」「こっちへ」ということがないように、と校区を決めている。

(前馬) 千里丘小学校、という場所を大切に、誇りに思えるようにして欲しい。

(校長) 議題にはない内容であったが、市に地域の皆様のご意見を伝えるためにも、この場で話題として挙げさせていただいた。要点録という形で皆さんの意見を教育委員会に伝え、訴えていこうと思う。新たに情報が入れば、また共有させていただきたい。

4. 閉会に寄せて

(校長) 最終回なので、一言ずつ感想をいただきたい。

(寺田) 今後もこのような形で地域の方とつながる場を継続していけるのであれば、千里丘小学校の未来は明るいと思う。

(以登田) たくさん思いを述べさせていただいた。いろいろな人のいろいろな意見を交流できた。いいところを吸収して還元していただけたらと思う。アットホームな温かい場で、和気あいあいと協議できて良かった。

(中田) 今まで参加させていただいていたが、今回、初めて提言という形でまとめていただいてありがたい。一つの結果として出していただいたことを嬉しく思う。

(前馬) 要点録を教職員に配っている、ということが嬉しかった。ここで話し放しになっていないということ、自分たちの意見が役に立っている、という実感があり、参加することが楽しかった。

(佐野) お声をかけていただいたことが光栄で嬉しかった。地域の方々と話ができ、これからも貢献できたらと思う。

(橋爪) 初めて声をかけていただき、役に立てるかこわごわ参加させていただいたが、自分自身、勉強になった。提言に「子どもの味方となる民生委員」とあるが、なかなか取組みができていない。形を変えて何か関われないか、考えてみたい。千小っ子運動タイムについても、何かお手伝いできないか、という思いだ。

(武友) 欠席が多く、なかなか参加が叶わなかったが、校長、教頭の千里丘小学校を良くしようとする熱心な気持ちがよく分かった。3人の子供が卒業してから学校から遠ざかっていたが、勉強になった。

(藤浦) 本当に勉強になり、感謝の思いでいっぱいである。自分自身、青少年指導員として各小学校の役員会に参加するのだが、地域によって子どもの数が減っている中、千里丘小学校の児童が増えていることを嬉しく思う。今年一年間、学校の先生方が積極的に取り組んでいる様子を見る中で、ますます千里丘小学校を誇りに思うことができた。

(教頭) 学校協議会に初めて参加する中で、地域の方のご意見や思いを温かく、ありがたく感じた。協議会の要点録をまとめながら感謝の気持ちでいっぱいになった。みなさんの熱い想いを教職員に伝え、学校の力にしたいと思う。

(校長) 今回が今年度の最終回。要点録を教職員に配って地域からの声を届ける中で、教職員が敏感にいろいろなことを感じとっていることを実感した。これも、皆様から貴重なご意見をいただけたことによるものであり、心から感謝申し上げる。本年度の学校協議会はこれで終了だが、千里丘小学校はこれからも続いていく。今後もどうかよろしくお願いいたします。